

授業科目名	地球社会とグローバルガバナンス	単位数	2
担当教員名	三村 悟	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	ODA 実施機関職員としての国内外での実務経験と、技術協力専門家として国際機関および開発途上国政府機関において指導を行った経験をもとに、国際社会のガバナンスや地球規模課題について臨場感を持って教授する。(実務経験有)		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>世界が直面する様々な問題の解決に向けた、各国政府や国際機関、企業、市民社会など多様な主体による取組みや、それら主体間の連携について考えることで、学位授与方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけ」ることに寄与する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>今日の国際社会では、紛争やテロ、難民や移民の問題、瞬時にして世界中に広がる経済問題、感染症や気候変動など、地球規模で影響を及ぼす様々な危機や対立が顕著となり、従来の国際秩序が変容している。グローバル化する社会では、世界政府のような中央集権的な権威は存在せず、一方で国家・非国家を問わない多様な主体が国境を越えた統治（ガバナンス）に貢献している。本科目では国境を越える地球全体の問題（地球規模課題）への対応を中心に、グローバルガバナンスについて学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキストをもとに、紛争、人権、環境、水問題などの国境を越える課題に対応するための国際枠組と、国家、非国家の主体による取組み、および近現代史における日本と国際社会について学ぶ。スクーリングにおいてこれら課題の国際交渉や多様な主体による行動、日本と国際社会の関わりについて具体例をもとに学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：国際連合と安全保障</p> <p>第2回：新興国の台頭</p> <p>第3回：非国家アクター（NGO）の働き</p> <p>第4回：宗教を背景としたガバナンス</p> <p>第5回：国際交渉での地域機構のリーダーシップ</p> <p>第6回：地域機構によるグローバル規範の実践</p> <p>第7回：紛争防止での国際機関の役割と限界</p> <p>第8回：地球規模課題</p> <p>第9回：持続可能な開発目標（SDGs）</p> <p>第10回：ユニバーサルヘルスケア</p> <p>第11回：気候変動枠組条約</p> <p>第12回：仙台防災枠組と自然災害への対応</p> <p>第13回：紛争防止、復興支援</p> <p>第14回：社会的包摂と多様な主体の参加</p> <p>第15回：日本と国際社会</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

テキストの内容全般に関わる説明に加え、日本と国際社会の関係性の変遷、および環境・気候変動や防災などの問題に対応するための国際枠組と、それに基づく様々な主体の取組について紹介する。また、持続可能な開発目標（SDGs）について詳述する。

（主に、8～15回の内容を含む。）

教科書

（1）グローバル・ガバナンス学会編（2018）『グローバル・ガバナンス学 II 主体・地域・新領域』法律文化社

参考文献

- ・ 事業構想大学院大学 出版部（著、編）、『SDGsの基礎』宣伝会議 2018年
- ・ 日能研教務部（編）『国連 世界の未来を変えるための17の目標 SDGs 2030年までのゴール』日能研 2017年
- ・ 気候変動枠組条約パリ協定に関する解説（地球環境戦略研究機関）
<https://www.iges.or.jp/jp/climate-energy/cop.html>
- ・ 市民のための仙台防災枠組（防災・減災日本CSOネットワーク）
http://sendai-resilience.jp/media/e-book/sfdr_2/HTML/list1.html
- ・ ゲルノット・ワグナー、マーティン・ワイツマン著、山形浩生訳『気候変動クライシス』東洋経済 2016年
- ・ 国連広報センターWebサイト
「2030アジェンダ」
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
- ・ 外務省 Web サイト
「ODA60周年－日本のODAの成果とこれからの方向性」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/14_hakusho/honbun/b1/s1_1.html
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/14_hakusho/honbun/b1/s1_2.html
- ・ 「ODAの歩みと成果」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000224038.pdf>

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。